

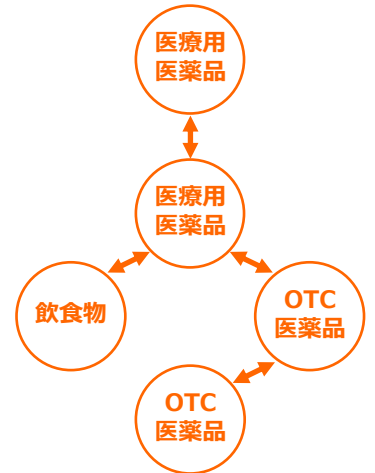
## データベースの概要

医療用医薬品の添付文書に記載されている全ての相互作用の情報に関するデータベースです。

相互作用チェックの結果として、添付文書の該当箇所の「併用薬剤名」や「併用飲食物」、「発現事象」、「理由」などを表示することが可能です。

また、内服薬、外用薬、注射薬を問わず、右図の組み合わせにおける相互作用のチェックを行うことが可能です。


OTC医薬品同士の組み合わせについても、相互作用のチェックを行うことが可能です。



## データベースの特徴

### 6段階のレベル分け

添付文書の相互作用の情報を以下の6段階のレベルに区分しているため、選択したレベルの範囲でチェックを行うことが可能です。

高  低	レベル	添付文書の記載表現
	禁止	禁忌、禁止、併用しない、併用（投与）を避ける など
	原則禁止	原則禁忌、原則として禁止、原則として併用（投与）しない など
	相対禁止	有益性が危険性を上回る場合にのみ併用（投与）など
	希望禁止	併用（投与）しないことが望ましい など
	慎重投与	慎重投与、慎重に併用する など
	注意	併用注意、注意、留意 など

※添付文書の同一項目内に複数の異なるレベルの記載があった場合には、高いレベルを採用しています。

### 例

【併用注意】の項目（「注意」レベルに該当）に「相対禁止」レベルの記載がある場合は、「相対禁止」のレベルを適用しています。

『サーティカン錠0.25mg』の添付文書（抜粋）

#### 10. 相互作用

##### 10.2 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
リファンピシン	本剤の血中濃度が低下することがあるので、併用する場合には治療上の有益性が危険性を上回る場合にのみ使用すること。	これらの薬剤の代謝酵素（CYP3A4等）誘導作用により本剤の代謝が促進されると考えられる。

相対禁止

## 相互作用項目以外の記載に対応

添付文書の【相互作用】以外の項目に相互作用に関する記載がある場合についても、漏れなくチェックを行うことが可能です。

なお、添付文書の記載項目の選択に応じたチェックを行うことや、相互作用以外の項目に記載されている情報について、チェックを除外することも可能です。

### 例

『レミケード点滴静注用100』の添付文書に【相互作用】の項目はありませんが、【重要な基本的注意】の項目に「本剤治療中は、生ワクチン接種を行わないこと」の記載があるため、両薬品の併用は「禁止」となります。

『レミケード点滴静注用100』の添付文書（抜粋）

#### 8. 重要な基本的注意

8.5 本剤治療中は、生ワクチン接種を行わないこと。また、本剤の投与と生ワクチン接種との間隔は十分にあげることが望ましい。やむを得ず生ワクチン接種から本剤の投与まで十分な間隔をあげることができない場合には、リスク・ベネフィットを慎重に判断した上で使用すること。生ワクチンによる感染症発現の可能性が否定できない。

【相互作用】の項目はないものの、【重要な基本的注意】の項目の記載により『レミケード点滴静注用100』と「生ワクチン」の併用は**禁止**

## 相手薬の副作用に関する記載に対応

相手薬が「QT延長を起こすことが知られている薬剤」のような副作用に関する記載の場合でも、該当薬との併用について漏れなくチェックを行うことが可能です。

### 例

『シクレスト舌下錠10mg』の添付文書には【併用注意】の項目に「QT延長を起こすことが知られている薬剤」の記載があります。また『レクサブロ錠10mg』の【重大な副作用】の項には「QT延長」の記載があり、両薬品の併用は「注意」となります。

『シクレスト舌下錠10mg』の添付文書（抜粋）

#### 10. 相互作用

##### 10.2 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
QT延長を起こすことが知られている薬剤 [9.1.3参照]	QT延長があらわれるおそれがある。	併用によりQT延長作用が相加的に増加するおそれがある。

『レクサブロ錠10mg』の添付文書（抜粋）

#### 11. 副作用

##### 11.1 重大な副作用

11.1.4 QT延長（頻度不明）、心室頻拍（torsades de pointesを含む）（頻度不明）  
[2.3、2.4、7.2、8.7、9.1.1、10.1、10.2 参照]

### 相互作用のチェック結果例

『シクレスト舌下錠10mg』

【項目】相互作用（併用注意）の項

【併用薬剤】QT延長を起こすことが知られている薬剤『レクサブロ錠10mg』

【発現事象】QT延長

【指示】**注意**

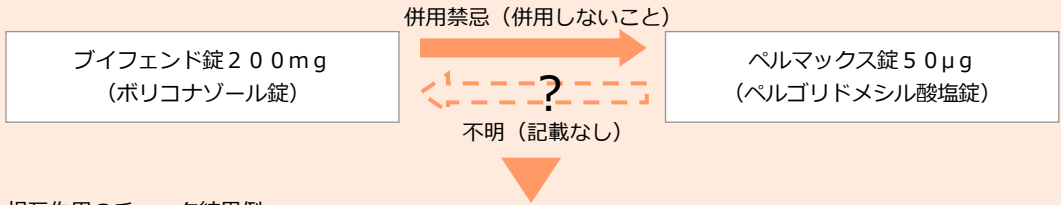
【理由】QT延長作用が相加的に増加

## 一方通行の記載に対応

自薬か相手薬のどちらか一方の添付文書にのみ相互作用の記載がある場合でも、記載をもとにしたチェックを行うことが可能です。

### 例

『ブイフェンド錠200mg』の添付文書の【相互作用】の項目には、「麦角アルカロイド」の記載があります。一方、成分が麦角アルカロイド誘導体である『ペルマックス錠50μg』の添付文書には、『ブイフェンド錠200mg』との併用に関する記載はありませんが、両薬品の併用は「禁止」となります。



### 相互作用のチェック結果例

『ブイフェンド錠200mg』  
 【項 目】 相互作用（併用禁忌）の項  
 【併用薬剤】 麦角アルカロイド『ペルマックス錠50μg』  
 【発現事象】 血中濃度が増加し麦角中毒  
 【指 示】 **禁止**  
 【理 由】 本剤はこれら薬剤の代謝酵素（CYP3A4）を阻害

## 相手薬の薬効群記載に対応

相手薬が薬効群で記載されている場合や、具体的成分名が“等”で包括された記載となっている場合でも、対象薬品全てと漏れなくチェックを行うことが可能です。

### 例

『レザルトス配合錠HD』の添付文書に『デパス錠1mg』の記載はありませんが、『デパス錠1mg』はベンゾジアゼピン系薬剤の一種であるため、両薬品の併用は「注意」となります。

『レザルトス配合錠HD』の添付文書（抜粋）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ベンゾジアゼピン系薬剤 ジアゼパム、ミダゾラム、トリアゾラム等	アゼルニジピン又はこれらの薬剤の作用が増強されるおそれがある。必要があれば本剤の成分であるアゼルニジピンを減量した処方に切り替えること、又はこれらの薬剤を減量すること。	アゼルニジピンとこれらの薬剤がCYP3A4を競合的に阻害することにより、相互のクリアランスが低下すると考えられる。

### 相互作用のチェック結果例

『レザルトス配合錠HD』  
 【項 目】 相互作用（併用注意）の項  
 【併用薬剤】 ベンゾジアゼピン系薬剤『デパス錠1mg』  
 【発現事象】 アゼルニジピン又はこれらの薬剤の作用が増強  
 【指 示】 **注意**  
 【理 由】 アゼルニジピンとこれらの薬剤がCYP3A4を競合的に阻害することにより、相互のクリアランスが低下

※外用薬の相互作用に関しては、その全身作用について臨床現場の使用法や先生方の考えが様々であることから、相互作用のチェック対象としています。但し、外用薬の判別情報を保持しているため、除外することが可能です。

※相手薬が薬効群での記載の場合、当該薬効作用を主とする薬品に加え、当該薬効作用を多少なりとも有する薬品についても、安全性を重視し、相互作用のチェック対象としています。

## 医療用医薬品と飲食物などとの相互作用に対応

代表的な飲食物（日用品を含む）と医療用医薬品との組み合わせで相互作用のチェックを行うことが可能です。

### 例

『ジェイゾロフトOD錠100mg』の添付文書（抜粋）

10. 相互作用		
10.2 併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
アルコール (飲酒)	本剤投与中は、飲酒を避けることが望ましい。	本剤との相互作用は認められていないが、他の抗うつ剤で作用の増強が報告されている。

患者の嗜好品にアルコールを登録

- アルコール
- 乳製品
- コーヒー
- ジュース
- お茶
- 納豆
- その他

相互作用のチェック結果例

『ジェイゾロフトOD錠100mg』  
 【項目】相互作用（併用注意）の項  
 【飲食物】 **アルコール、飲酒**  
 【指示】希望禁止  
 【理由】他の抗うつ剤で作用の増強

## 医療用医薬品とOTC医薬品の相互作用に対応

医療用医薬品とOTC医薬品の組み合わせで相互作用のチェックを行うことが可能です。

なお、配合剤の場合でも個々の成分を対象にチェックを行います。

### 例

『エックスフォージ配合OD錠』の添付文書（抜粋）

10. 相互作用		
10.2 併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
非ステロイド性消炎鎮痛剤 (NSAIDs) インドメタサン <b>等</b>	バルサルタンの降圧作用が減弱することがある。	NSAIDsの腎プロスタグランジン合成阻害作用により、バルサルタンの降圧作用が減弱することがある。

OTC医薬品：『イブA錠』の有効成分

2錠中  
**イブプロフェン** 150mg  
 アリルイソプロピルアセチル尿素 60mg  
 無水カフェイン 80mg

相互作用のチェック結果例

『エックスフォージ配合OD錠』  
 【項目】相互作用（併用注意）の項  
 【併用薬剤】 **非ステロイド性消炎鎮痛剤 <NSAIDs>** 『イブA錠』  
 【発現事象】バルサルタンの降圧作用が減弱  
 【指示】注意  
 【理由】NSAIDsの腎プロスタグランジン合成阻害作用

## OTC医薬品同士の相互作用に対応

OTC医薬品は、添付文書に記載されている相互作用の情報が不明瞭な場合が多いため、医療用医薬品の添付文書に記載されている相互作用情報をOTC医薬品に適用し、データを作成しています。

これにより、医療用医薬品と同じ有効成分を含有する要指導・第1類のOTC医薬品について、全てのOTC医薬品を対象とした組み合わせで相互作用のチェックを行うことが可能です。

### 例

OTC医薬品の『アネトンせき止め顆粒』と医療用医薬品の『テオドール顆粒20%』は、有効成分としていずれもテオフィリンを含有する製剤です。

『テオドール顆粒20%』の相互作用情報を『アネトンせき止め顆粒』に適用することで、『アネトンせき止め顆粒』とOTC医薬品の『ノーシンホワイト錠』の組み合わせにおいて、次のようなチェック結果を取得することが可能です。

OTC医薬品：『アネトンせき止め顆粒』の有効成分

成人1日量（4包）中<1包1.5g>  
 コデインリン酸塩水和物60mg  
 dl-メチルエフェドリン塩酸塩40mg  
**テオフィリン**160mg  
 グアヤコールスルホン酸カリウム270mg  
 クロルフェニラミンマレイン酸塩8mg

いずれもテオフィリンを含有

医療用医薬品：『テオドール顆粒20%』の有効成分

1g中  
**テオフィリン**200mg

医療用医薬品：『テオドール顆粒20%』の添付文書（抜粋）

3. 相互作用 併用注意(併用に注意すること)		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
他のキサンチン系薬剤 (アミノフィリン、 コリンテオフィリン、 ジプロフィリン、 <b>カ フェイン</b> 等) 中枢神経興奮薬 (エフェドリン塩酸 塩、マオウ等)	過度の中中枢神経刺激 作用があらわれること がある。(「過量投 与」の項参照) 副作用の発現に注意 し、異常が認められた 場合には減量又は投 与を中止するなど適 切な処置を行うこと。	併用により中枢神経 刺激作用が増強され る。

OTC医薬品：  
『ノーシンホワイト錠』の有効成分

2錠中  
 アセトアミノフェン300mg  
 エテンザミド380mg  
**カフェイン水和物**60mg

相互作用のチェック結果例

『アネトンせき止め顆粒』  
 【項目】相互作用（併用注意）の項  
 【併用薬剤】**カフェイン**『ノーシンホワイト錠（**カフェイン水和物**）』  
 【発現事象】過度の中中枢神経刺激作用  
 【指示】注意  
 【理由】中枢神経刺激作用が増強

## データベースの機能

### 相互作用をチェック

医療用医薬品同士、医療用医薬品と飲食物、医療用医薬品とOTC医薬品、OTC医薬品同士のいずれの組み合わせでも、相互作用のチェックを行うことが可能です。

相互作用のチェックを行うことにより、処方内容の監査や患者さんへの服薬指導、又はセルフメディケーションのサポートにご利用いただけます。

### チェック結果の表示

「併用薬剤名」や「併用飲食物」、「発現事象」、「投与条件」、「理由」、「指示」などの添付文書の該当箇所を詳しく表示することが可能です。

### 相互作用の相手薬の検索

任意の薬品に対して、相互作用が発現する可能性のある薬品の有無や、商品名を検索することが可能です。

#### 例

『オノンカプセル112.5mg』の添付文書（抜粋）

2. 相互作用 併用注意（併用に注意すること）		
薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
主に CYP3A4 によって代謝さ れる薬剤	本剤及びこれらの薬 剤の血中濃度が上昇 する可能性がある。	本剤は <i>in vitro</i> 試 験で CYP3A4 によ り代謝され、これら の薬剤の代謝を競合 的に阻害するとの報 告がある。
CYP3A4 を阻 害する薬剤 (イトラコナゾール、 エリスロマイシン等)	本剤の血中濃度が上 昇する可能性がある。	<i>in vitro</i> 、 <i>in vivo</i> 試験でこれらの薬剤 により本剤の代謝が 阻害されるとの報告 がある。〔薬物動態〕 の項参照)

#### CYP3A4によって代謝される薬剤

ルネスタ錠1mg  
ザイザル錠5mg  
ミカトリオ配合錠

など

#### CYP3A4を阻害する薬剤

エクリラ400μg ジェヌエア60吸入用  
デプロメル錠25  
タケキャブ錠10mg

など

### 高品質な医薬品情報データベースで様々な課題を解決

データインデックスの医薬品情報データベースは、薬剤師や専門スタッフによる日々のメンテナンスと独自の情報処理技術を基盤としています。豊富な情報量と高い品質を兼ね備え、医薬品情報によって病気の治療や健康をささえる「情報医療」の推進に貢献します。

詳しくはこちらから → <https://www.data-index.co.jp/>